

株主の皆さまへ

第97期中間報告書

(2019年4月1日から2019年9月30日まで)

東芝機械株式会社

Best Partner of Leading Industries

証券コード：6104

株主の皆さまへ



取締役社長
三上高弘

株主の皆さまには、平素よりご高配を賜わり、心よりお礼申し上げます。
ここに、株主の皆さまへ（第97期中間報告書）をお届けするにあたりまして、
ひと言ごあいさつ申し上げます。

当社は、2020年4月1日付で「東芝機械株式会社」から
「芝浦機械株式会社」に商号を変更いたします。

Shibaura Machine
View the Future with You

芝浦機械株式会社という新しい社名には、「モノづくり」を通じて社会に貢献することで進化を続けてきた、このDNAを忘れることなく、今後も、「お客さまと共に更なる進化を遂げていく」との思いを込めています。

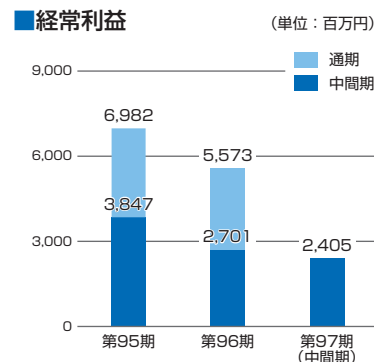
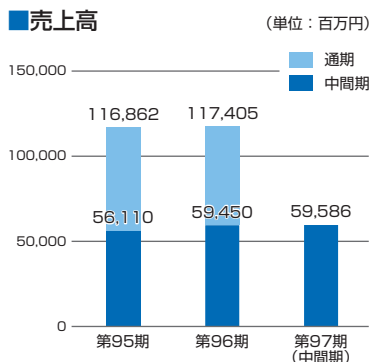
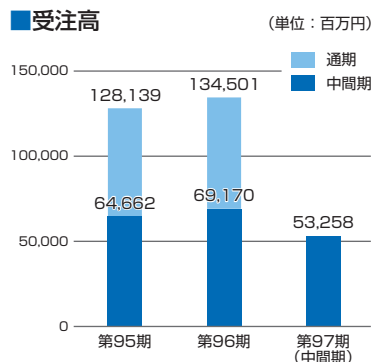
当第2四半期の状況と業績

第2四半期連結累計期間における世界経済は、海外の通商問題の影響による中国およびその他の国の経済の減速継続、英国のEU離脱問題など、先行き不透明な状況が続いております。わが国経済も世界経済減速の影響を受けて、引き続き輸出の弱含みや生産の弱含みが見られました。

当社グループが属する機械業界につきましても、国内の設備投資は、中国経済の減速による輸出低迷を背景に慎重な姿勢が強まり、海外は対象とする市場や製品により景況感に差異が生じております。

このような経済環境のもとで、当社グループは新中期経営計画「Revolution E10 Plan」を2019年4月1日

業績ハイライト



からスタートさせました。「機械メーカーの総合力を最大限活かして成長し続けること」を基本指針とし、早く、激しく変化する時代において勝ち残り、成長するために従来の考え方や仕事の進め方を大きく変えて、収益力向上への変革を目指してまいります。

その上で、体質改善、商品力の共有と強化、成長投資による企業価値の向上に向けた諸施策に全力をあげ、取り組んでまいりました。

当第2四半期連結累計期間の受注高は、532億5千8百万円（前年同期比23.0%減）、売上高は、595億8千6百万円（前年同期比0.2%増）となりました。損益につきましては、営業利益は16億3千7百万円（前年同期比1.1%増）、経常利益は24億5百万円（前年同期比10.9%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は16億2千万円（前年同期比16.2%減）となりました。

連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

第2四半期連結累計期間における業績の進捗を勘案し、業績予想の見直しを行なった結果、2019年5月9日公表の予想を修正いたしました。詳細は、2019年11月

8日に公表いたしました「2020年3月期第2四半期累計期間の業績予想数値と実績値の差異および通期業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

配当について

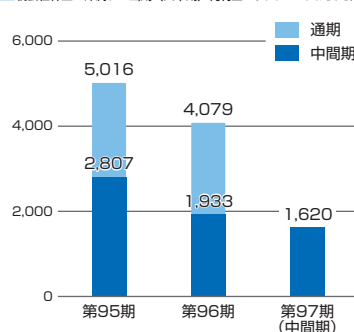
当社は、収益性の向上に向けて経営体質の強化を図りながら、安定配当を維持し、業績に応じた利益配分をしていくことを基本方針としております。利益剰余金につきましては、財務体質を強化しつつ、企業の継続的発展のため将来の事業展開等を戦略的に判断し、生産設備、技術開発、海外展開等に有効に投資していくとともに、継続して株主の皆さまへの適正な利益還元を実施してまいります。

なお、当期中間配当金につきましては、1株につき普通配当37.5円に記念配当5円を加え、42.5円とさせていただきます。

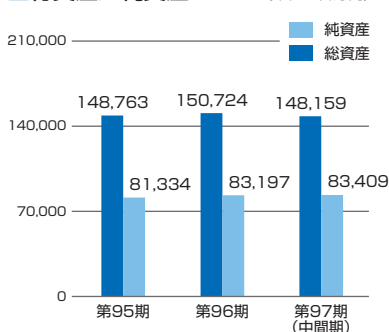
株主の皆さまにおかれましては、何卒いっそうのご指導、ご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

2019年12月

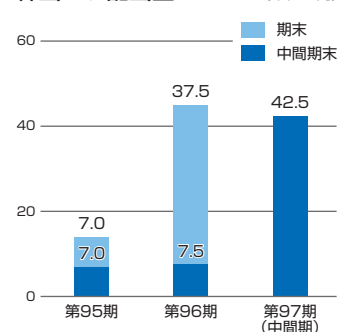
■親会社株主に帰属する当期（四半期）純利益（単位：百万円）



■総資産／純資産



■1株当たり配当金



（注）当社は2018年10月1日付で普通株式5株を1株とする株式併合を行なっております。第96期の年間配当金は、株式併合前の中間配当と株式併合後の期末配当を合計したものであり、株式併合実施前を基準に換算すると、期末配当は1株につき7.5円、年間配当金は1株当たり15円に相当いたします。

事業別の概況

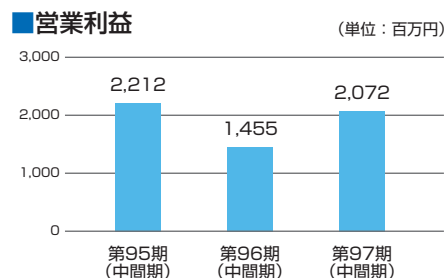
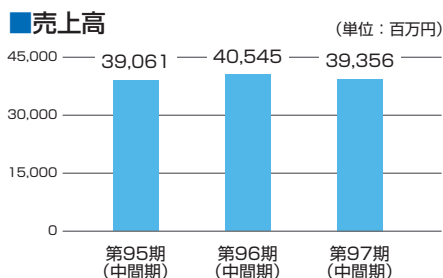
成形機事業（射出成形機、ダイカストマシン、押出成形機など）

射出成形機におきましては、国内外で自動車向けを中心とした設備投資が軟調に推移し、販売と受注が減少いたしました。

ダイカストマシンにおきましては、販売は、北米、中国の自動車向けが減少いたしました。受注は、東南アジア向けの需要が継続するに留まりました。

押出成形機におきましては、販売は、国内の造粒機や食品容器および光学用シート・フィルム製造装置、中国の二次電池向けシート・フィルム製造装置を中心に堅調に推移いたしました。受注は、中国の二次電池向けシート・フィルム製造装置が増加いたしました。

この結果、成形機事業全体の受注高は、351億7千万円（前年同期比23.2%減）、売上高は、393億5千6百万円（前年同期比2.9%減）、営業利益は、20億7千2百万円（前年同期比42.4%増）となりました。

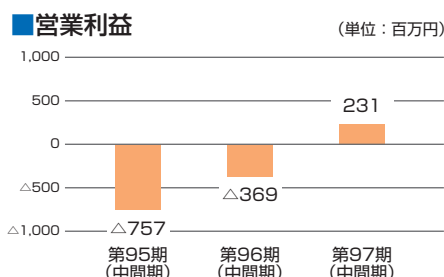
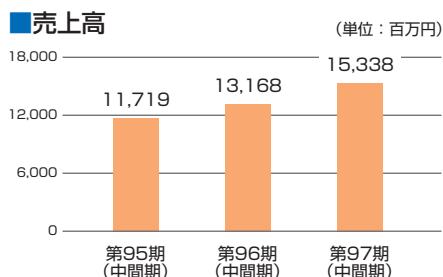


工作機械事業（大型機、門形機、横中ぐり盤、立旋盤、精密加工機など）

工作機械におきましては、販売は、国内の産業機械や建設機械向け、北米の航空機向け、中国、東南アジアの産業機械向けを中心に増加いたしました。受注は、国内、北米、東南アジアの建設機械向けは堅調に推移いたしました。国内の産業機械向けの減少を受けて、軟調に推移いたしました。

精密加工機におきましては、国内、中国のレンズ用および自動車用・スマートフォン用光学金型向けに販売と受注が堅調に推移いたしました。

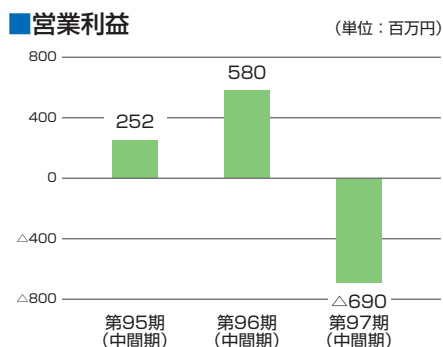
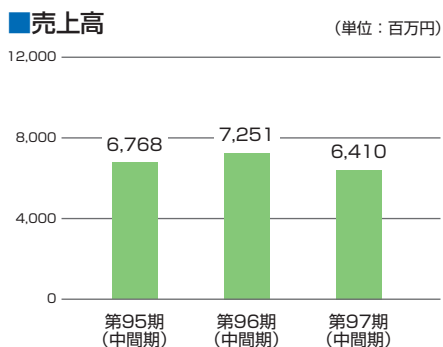
この結果、工作機械事業全体の受注高は、133億8千1百万円（前年同期比23.8%減）、売上高は、153億3千8百万円（前年同期比16.5%増）、営業利益は、2億3千1百万円（前年同期は営業損失3億6千9百万円）となりました。



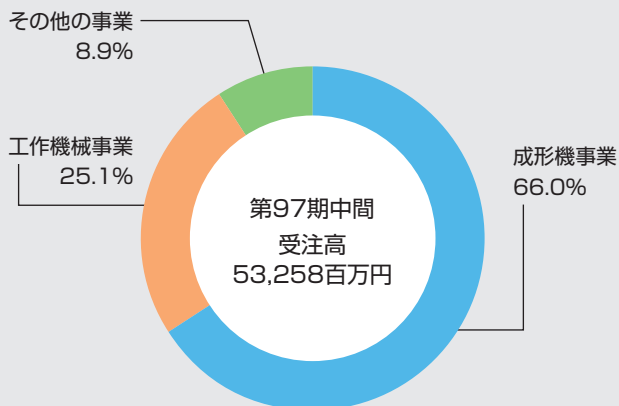
その他の事業（産業用ロボット、電子制御装置など）

産業用ロボットにおきましては、国内の自動車関連業界等の自動化関連設備向けが軟調に推移し、国内外とも販売と受注で調整局面が続いております。

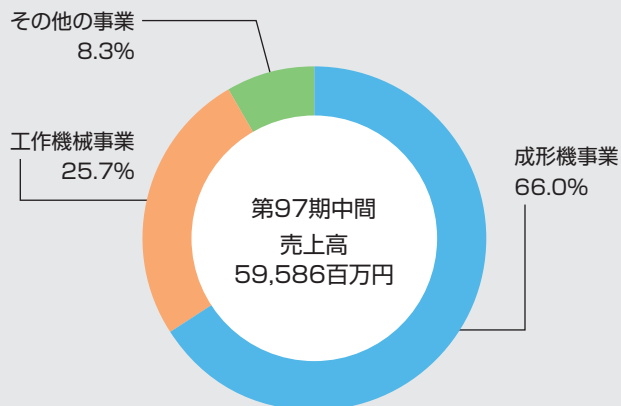
この結果、その他の事業全体の受注高は、47億6百万円（前年同期比18.7%減）、売上高は、64億1千万円（前年同期比11.6%減）、海外案件の売掛金の回収状況などを踏まえ貸倒引当金を計上したことにより、営業損失は、6億9千万円（前年同期は営業利益5億8千万円）となりました。



事業別受注高構成比率



事業別売上高構成比率



連結財務諸表

連結貸借対照表

(単位：百万円)

科 目	第97期中間期 (2019年9月30日現在)	第96期 (2019年3月31日現在)	科 目	第97期中間期 (2019年9月30日現在)	第96期 (2019年3月31日現在)
資 産 の 部			負 債 の 部		
流 動 資 産	106,555	108,838	流 動 負 債	50,792	53,488
現金及び預金	24,074	25,592	支払手形及び買掛金	27,202	28,207
受取手形及び売掛金	38,241	37,405	短期借入金	10,090	10,090
商品及び製品	10,702	12,153	リース債務	34	31
仕掛品	31,117	29,793	未払法人税等	590	466
原材料及び貯蔵品	61	73	未払費用	4,782	4,854
その他の流動資産	2,416	3,909	前受金	6,309	7,842
貸倒引当金	△ 59	△ 89	製品保証引当金	662	604
固 定 資 産	41,604	41,885	その他の流動負債	1,120	1,391
有形固定資産	20,364	20,765	固 定 負 債	13,957	14,037
建物及び構築物	10,913	11,297	長期借入金	4,300	4,300
機械装置及び運搬具	2,321	2,220	リース債務	74	74
土地	6,462	6,460	長期未払金	5	5
リース資産	105	104	繰延税金負債	54	66
建設仮勘定	57	130	役員退職慰労引当金	36	32
その他の有形固定資産	502	550	退職給付に係る負債	9,387	9,475
無形固定資産	590	641	資産除去債務	52	51
その他の無形固定資産	590	641	その他の固定負債	46	31
投資その他の資産	20,649	20,479	負 債 合 計	64,749	67,526
投資有価証券	18,917	18,379	純資産の部		
出資金	549	170	株 主 資 本	80,345	79,630
長期貸付金	14	16	資本金	12,484	12,484
繰延税金資産	683	703	資本剰余金	11,538	11,538
その他の投資	1,502	1,556	利益剰余金	72,698	71,983
貸倒引当金	△ 1,019	△ 345	自己株式	△ 16,376	△ 16,375
資 産 合 計	148,159	150,724	その他の包括利益累計額	3,064	3,566
			その他有価証券評価差額金	2,948	2,844
			繰延ヘッジ損益	-	0
			為替換算調整勘定	1,035	1,711
			退職給付に係る調整累計額	△ 919	△ 988
			純 資 産 合 計	83,409	83,197
			負債・純資産合計	148,159	150,724

連結損益計算書

(単位：百万円)

科 目	第97期中間期	第96期中間期
	(2019年4月1日から 2019年9月30日まで)	(2018年4月1日から 2018年9月30日まで)
売 上 高	59,586	59,450
売 上 原 価	42,583	43,127
売 上 総 利 益	17,003	16,322
販売費及び一般管理費	15,366	14,703
営 業 利 益	1,637	1,619
営 業 外 収 益	945	1,298
営 業 外 費 用	177	217
経 常 利 益	2,405	2,701
特 別 利 益	1	87
特 別 損 失	24	13
税金等調整前四半期純利益	2,383	2,774
法人税、住民税及び事業税	817	934
法人税等調整額	△ 54	△ 93
四 半 期 純 利 益	1,620	1,933
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,620	1,933

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科 目	第97期中間期	第96期中間期
	(2019年4月1日から 2019年9月30日まで)	(2018年4月1日から 2018年9月30日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	838	△ 1,986
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 843	△ 560
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 922	△ 862
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 589	217
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△ 1,517	△ 3,192
現金及び現金同等物の期首残高	25,592	30,798
非連結子会社との合併に伴う 現金及び現金同等物の増加額	—	138
現金及び現金同等物の四半期末残高	24,074	27,744

連結財務諸表のポイント

資 産

当第2四半期連結会計期間末の資産は、前連結会計年度末に比べ25億6千5百万円減少し、1,481億5千9百万円となりました。減少の主な内訳は、現金及び預金が15億1千8百万円、商品及び製品が14億5千1百万円減少したこと等によります。

負 債

負債は、前連結会計年度末に比べ27億7千7百万円減少し、647億4千9百万円となりました。減少の主な内訳は、支払手形及び買掛金が10億5百万円、前受金が15億3千3百万円減少したこと等によります。

純資産

純資産は、前連結会計年度末に比べ2億1千2百万円増加し、834億9百万円となりました。増加の主な内訳は、為替換算調整勘定が6億7千6百万円減少したものの、利益剰余金が7億1千5百万円増加したこと等によります。

この結果、当第2四半期連結会計期間末の自己資本比率は56.3%となりました。

キャッシュ・フロー計算書

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という）の残高は、前連結会計年度末に比べ15億1千7百万円減少し、240億7千4百万円となりました。なお、当第2四半期連結累計期間における各活動によるキャッシュ・フローの状況は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動による資金は、8億3千8百万円の増加になりました。これは主として、利息及び配当金の受取5億1千7百万円等があったことによります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動による資金は、8億4千3百万円の減少になりました。これは主として、有形固定資産の取得による支出4億9千9百万円等があったことによります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動による資金は、9億2千2百万円の減少になりました。これは主として、配当金の支払額9億5百万円等があったことによります。

■金属3D積層造形装置「ZKシリーズ」の受注を開始（製法の抜本的变化で環境負荷低減に寄与し、高速・高精度造形を実現）

当社は2014年からTRAFAMに加入し、経済産業省およびNEDOの研究開発プロジェクトにて金属積層造形装置の開発を進め、このたび小型から中・大型部品まで幅広い対応を可能とする製品ラインアップをご用意いたしました。

＜主な特長＞

- ・生産性向上やコスト・環境負荷低減に貢献

本機は、付加製造（Additive Manufacturing：AM）を実現する装置で、積層造形のエネルギー源にレーザーを用い、材料の金属粉末を供給しながら造形する指向性エネルギー堆積方式（Directed Energy Deposition：DED）を採用しました。DED方式は、従来の切削加工による製法に比較して必要とする材料が格段に少量で済むことから、材料調達納期短縮、材料重量削減などの生産性を向上、廃材が極めて少ないことによる環境負荷低減が期待できます。

- ・DED方式ならではの次世代の設計・製造に活用

DED方式の採用で、型を必要としないモノづくり、既存部品への部分的な肉盛り造形、異種粉末の併用による複層化など次世代の設計・製造に活用可能です。

- ・自社開発部品の採用で、高速・高精度造形を実現

本機は、1～6kWの高出力レーザーに対応可能な自社製光学ヘッドおよび材料の金属粉末供給量を増加し、高い収束性を実現した自社製ノズルを採用することで、高速造形、高精度な造形を実現いたします。なお、自社部品の製作にあたり、TRAFAMおよびNEDOとの研究開発プロジェクトの成果を基に開発いたしました。

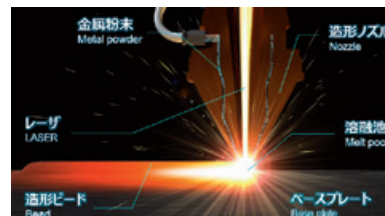
- ・導入前から導入後までの幅広いトータルサポート

当社の保有する技術ソリューションを用いて、装置の導入前から導入後まで幅広くサポートし、お客さまの価値創出に貢献いたします。

本シリーズは、200×200×200mmの小型から1,000mm以上の大型部品造形に対応、販売価格は5,000万円からを予定しております。



金属3D積層造形装置「ZKシリーズ」



DED方式

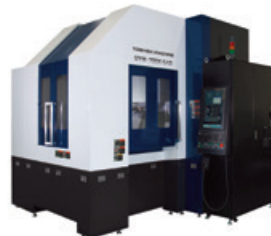
■日刊工業新聞社主催 第49回機械工業デザイン賞 日本産業機械工業会賞を受賞

当社の超精密マシニングセンタ「UVM-700E (5AD)」が、このたび日刊工業新聞社主催「第49回機械工業デザイン賞」にて、「日本産業機械工業会賞」を受賞しました。

本賞は主に生産財を対象として、外観、機能、性能、色彩などさまざまな要素を総合的に判断して評価されるものです。

今回の受賞は、自動車部品の光学部品金型加工において、(1)形状精度や面精度の向上、(2)小径工具による微細加工、(3)長時間加工対応を実現し、磨き時間の大幅短縮や表面荒さ〔10nmRa〕レベルの「磨きレス鏡面加工」を達成しており、その内容は、ナノテクノロジーを搭載した超精密加工機における国内唯一のメーカー製品に相応しい完成度を有している点が評価されました。

当社は、今後開発される機械でも、多様化するユーザーニーズに対応する製品づくりに取り組んでまいります。



超精密マシニングセンタ「UVM-700E(5AD)」



贈賞式の様子

■EMO2019 国際金属加工見本市に出展

2019年10月16日～21日までの6日間、ドイツハノーバーにて国際金属加工見本市（EMO2019）が開催されました。

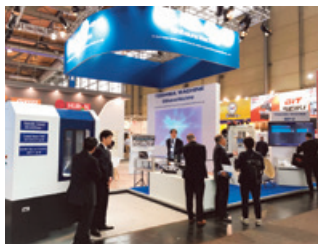
本展示会は、工作機械の世界3大見本市の1つと言われ、出展社数は2,200社を超え、世界160か国以上より約130,000人が来場する世界最大級の展示会です。

当社は、自動車用LEDヘッドライト金型加工向けにご好評いただいている、超精密マシニングセンタ「UVM-450D（H）」の実機展示および非球面加工機「ULG」の要素展示ならびに航空業界向けに門形複合加工機「MP-U用4軸ヘッド」のほか、3D積層造形サンプルの展示を行ないました。

また、当社のIoTへの取組み紹介として、ドイツが推進するumati規格*を使用し、日本に設置している装置のリアルタイムモニタを行ないました。

開催期間中、当社ブースには多数のお客さまにご来場者いただき、盛況のうちに終えることができました。本展示会でいただいた多くの引合いを今後の受注へと繋げてまいります。

*umati（universal machine tool interface）：工作機械がネットワークを介してシステムと接続しデータ交換をするための共通のインタフェース規格



EMO2019 会場風景



リアルタイムモニタの様子

■K2019 国際プラスチック・ゴム見本市に出展

2019年10月16日～23日までの8日間ドイツ・デュッセルドルフにて国際プラスチック・ゴム見本市（K2019）が開催されました。

本展示会は世界3大国際プラスチック展の1つで出展社数は3,200社を超え、世界60か国以上より約240,000人が来場する世界最大級の展示会です。

当社は、LSR（Liquid Silicone Rubbers：液状シリコンゴム）成形システムの実演として、射出成形機「EC50SXⅢ-1A」によるLEDライト用シリコンレンズの成形および超精密加工機「UVM-450D（H）」によるLEDヘッドライトの金型加工デモを実演し、金型から成形までのトータルソリューションを提案いたしました。

また、メタリック樹脂成形技術と自動組立システム実演として、射出成形機「EC100SXⅢ-2A」によるオール樹脂製ハサミの成形およびスカラロボット「THE600」による自動組立システムを実演いたしました。

開催期間中、世界各国より多数のお客さまにご来場いただき、盛況のうちに終えることができました。本展示会でいただいた多くの引合いを今後の受注へと繋げてまいります。



K2019 会場風景



射出成形機「EC100SXⅢ-2A」

■株主の皆さまの声を聞かせください

当社では、株主の皆さまの声を聞かせいただくため、インターネットでのアンケートを実施いたします。お手数ではございますが、アンケートへのご協力をお願いいたします（裏表紙ご参照）。

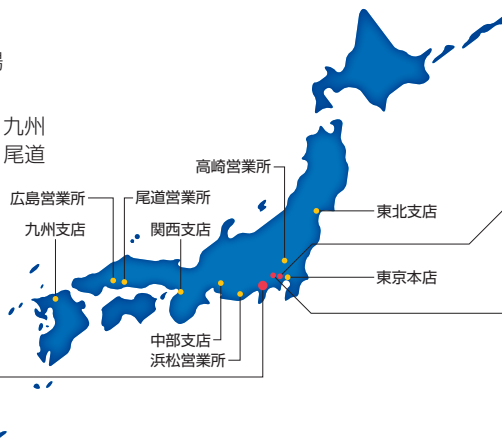
グローバルネットワーク (2019年9月30日現在)

国内拠点

- 本社・製造拠点 沼津
- 工場 沼津、相模、御殿場
- 販売拠点
- 本店 東京
- 支店 東北、中部、関西、九州
- 営業所 高崎、浜松、広島、尾道



沼津工場（本社）



相模工場



御殿場工場

海外拠点

- 製造拠点 ● 工場 中国、インド、タイ
- 販売拠点 全43拠点
- 東アジア 9拠点
- 東南アジア 25拠点（インド18拠点含む）
- 北米・中南米 7拠点
- 欧州 2拠点

● 東アジア統括

SHANGHAI
TOSHIBA MACHINE CO., LTD.

● 中国工場

TOSHIBA MACHINE
(SHANGHAI) CO., LTD.



● インド工場

TOSHIBA MACHINE
(CHENNAI) PRIVATE LIMITED



● 欧米統括

TOSHIBA MACHINE
COMPANY, AMERICA



● タイ工場

TOSHIBA MACHINE MANUFACTURING
(THAILAND) CO., LTD.



● 東南アジア統括

TOSHIBA MACHINE
(THAILAND) CO., LTD.

会社の概況／株式の状況 (2019年9月30日現在)

会社の概況

- ① 所在地
東京都千代田区内幸町2丁目2番2号
- ② 創業
1938年(昭和13年)12月
- ③ 設立
1949年(昭和24年)3月
- ④ 資本金
124億8千4百万円
- ⑤ 従業員数
連結：3,414名(前期末比68名増)
単独：1,828名(前期末比56名増)
- ⑥ 役員(2019年12月1日現在)
- | | |
|---------------------------|------|
| 代表取締役会長
最高経営責任者 | 飯村幸生 |
| 代表取締役社長
最高執行責任者 社長執行役員 | 三上高弘 |
| 代表取締役 副社長執行役員 | 坂元繁友 |
| 取締役 専務執行役員 | 小林昭美 |
| 社外取締役 | 佐藤潔 |
| 社外取締役 | 岩崎清悟 |
| 社外取締役 | 井上弘 |
| 社外取締役 | 寺脇一峰 |
| 取締役(常勤監査等委員) | 高橋宏 |
| 社外取締役(監査等委員) | 小倉良弘 |
| 社外取締役(監査等委員) | 宇佐美豊 |

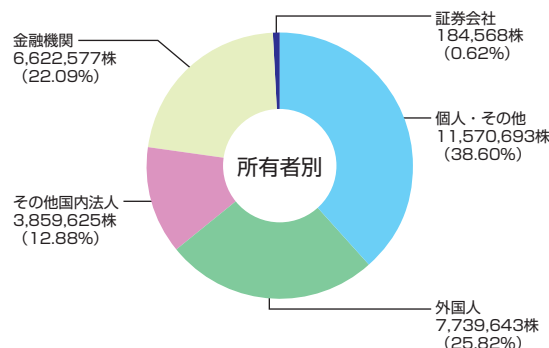
株式の状況

- (1) 発行可能株式総数 72,000,000株
- (2) 発行済株式の総数 29,977,106株
(自己株式5,841,875株含む)
- (3) 株主数 9,553名
(前期末比463名減)
- (4) 大株主(上位10名)

株主名	持株数	持株比率
株式会社オフィスサポート	1,507千株	6.25%
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口)	1,268	5.26
日本マスタートラスト信託 銀行株式会社(信託口)	1,133	4.70
株式会社東芝	667	2.77
株式会社静岡銀行	596	2.47
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505253	549	2.28
BBH FOR GLOBAL X ROBOTICS AND ARTIFICIAL INTELLIGENCE ETF	544	2.26
東芝機械従業員持株会	541	2.24
株式会社三井住友銀行	536	2.22
東芝機械取引先持株会	517	2.14

- (注) 1. 当社は、自己株式を5,841,875株保有しておりますが、上記大株主からは除外しております。
2. 持株比率は自己株式を控除して計算しております。

(5) 株式の分布状況



- (注) 自己株式を含みます。

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	6月
基準日	定時株主総会については3月31日 その他必要があるときは、あらかじめ公告して定める日
期末配当基準日	毎年3月31日
中間配当基準日	毎年9月30日
公告掲載新聞	日本経済新聞
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 (電話照会先) 電話 0120-782-031 (フリーダイヤル) 取次事務は三井住友信託銀行株式会社の全国各支店で行なっております。

- ・住所変更、単元未満株式の買取等のお申出先について
株主さまの口座のある証券会社にお申出ください。
なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主さまは、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。
- ・未払配当金の支払について
株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。



個人投資家向けHPのご案内



個人投資家の皆さまに当社へのご理解を深めていただくためのページをご用意しております。ご高覧の上、下記のアンケートにてご感想、掲載内容へのご意見等いただければ幸いです。

<https://www.toshiba-machine.co.jp/jp/ir/private/index.html>

株主の皆さまの声をお聞かせください

当社では、株主の皆さまの声をお聞かせいただくため、アンケートを実施いたします。お手数ではございますが、アンケートへのご協力をお願いいたします。

下記URLにアクセスいただき、アクセスコード入力後に表示されるアンケートサイトにてご回答ください。所要時間は5分程度です。

<https://www.e-kabunushi.com>
アクセスコード **6104**

いいかぶ

検索



空メールによりURL自動返信

kabu@wjm.jpへ空メールを送信してください。(タイトル、本文は無記入) アンケート回答用のURLが直ちに自動返信されます。

- アンケート実施期間は、本書がお手元に到着してから約2ヶ月間です。

ご回答いただいた方の中から
抽選で薄謝(図書カード500円)
を呈呈させていただきます



※本アンケートは、株式会社 a2media(エー・ツー・メディア)の提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。
(株式会社 a2mediaについての詳細<https://www.a2media.co.jp>)
※ご回答内容は統計資料としてのみ使用させていただきます。事前の承諾なしにこれ以外の目的に使用することはありません。(1809)

- アンケートのお問い合わせ TEL:03-6779-9487(平日 10:00~17:30)
「e-株主リサーチ事務局」 MAIL:info@e-kabunushi.com